

# 大学院先端医学研究セミナー

## クリニカルバイオバンクを基盤とした 網羅的がん遺伝子診断システム ～クラーク検査の臨床実装について～

講師；西原 広史 先生

(北海道大学大学院医学研究科探索病理学講座 特任教授)

平成28年10月3日(月) 18:15~19:15  
札幌医科大学臨床第1講義室

ゲノム医学の飛躍的な発展により、研究的なニーズに加えて臨床現場で最先端の解析機器を用いた遺伝子解析を行い、診断・治療に必要なデータを抽出するクリニカルシーケンスの確立が急務の課題となっている。そのためには、「診療情報と直結した生体試料の確保」と、「生体試料の合目的な高い品質管理」が必要であり、「迅速かつ少数検体の解析を行い、診療へフィードバックする」ことが求められる。北海道大学病院では、2014年8月に、Translational Research Laboratoryとしての機能を持ち、診療現場のリクエストに応えることが出来る「診療施設併設型バイオバンク」という新たなコンセプトのバイオバンクを設立し、積極的な臨床研究支援を実施している。さらに、バイオバンクの検体保管・処理技術やシステムをベースに、次世代シーケンサーMiSeqを用いてIn houseで網羅的がん遺伝子検査を実施する「クラーク検査システム」を開発し、2016年4月に「がん遺伝子診断外来」を開設した。開始から3か月で約40名の患者さんが受診され、Actionable 遺伝子変異検出率は86%、Druggable遺伝子変異検出率は44%であり、実際に遺伝子プロファイルに基づいた治験エントリーや特定の治療を実施している患者さんも6名に上っており、予想以上の成果を上げている。本講演では、バイオバンクの整備による積極的な臨床研究支援から、実際のゲノム医療の臨床実装に向けて、北海道大学病院の取り組みを紹介する。

大学院医学研究科医学研究セミナー認定

問い合わせ先 札幌医科大学病理学第一講座 (内線2691)